しらかば

2026年度春号　第72号

北海道社会福祉協議会

北海道中国帰国者支援・交流センター　〒060-0002　札幌市中央区北２条西７丁目一番地かでる２・７

電話 011-252-3411　FAX011-252-3412　URL: http://www.hokkaido-sien-center.jp/　E-mail: hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp

文化交流会

茶道で学ぶおもてなしの心

２月10日かでる2.7の研修室にて「茶道体験」を開催ました。帰国者30名、支援者1名が立礼棚によるお手前を体験しました。立礼棚とは、椅子に座ってお茶を点てるための道具で、正座が苦手な人でも茶道を気軽に楽しむことができます。

講師は表千家教授の斉藤美智先生。お菓子とお茶を味わった後は、先生とお弟子さんの指導のもと、希望者が実際にお茶を点てる体験にも挑戦しました。

会場には、戸外で茶会を開く際に使われるという赤い野点傘が立てられ、参加者の健康と幸せを願って、「無事是貴人」（無事である人こそが貴人である）と書かれた短冊がかけられました。お菓子も、健康と長寿の象徴である桃をかたどった、西王母というお菓子でした。

自由な気持ちで楽しんでほしい、との先生のはからいで、特に作法の説明はありませんでしたが、相手を思いやり、細部にまで気を配って心からもてなす、という茶道の精神が感じられるひとときとなりました。

中国・樺太帰国者を知る集い

「樺太残留邦人の体験と思い」

３月７日かでる2.7にて「中国・樺太帰国者を知る集い」を開催しました。今回は「樺太残留邦人の体験と思い」というテーマで樺太残留邦人に焦点を当て、集まった 101名の聴衆は、樺太残留邦人が生まれた経緯について学び、「戦後世代の語り部」の講話に耳を傾けました。また当センターが制作した、札幌在住の樺太残留邦人へのインタビュー動画を上映し、その生の声を聞く機会とすることができました。

戦争に翻弄され続ける残留邦人の人生

語り部　友末可織さん

「戦後世代の語り部」友末可織さんは、「サハリン残留日本人女性の戦中・戦後～戸倉富美さんの人生から～」というタイトルで、樺太残留邦人戸倉富美さんの帰国までの苦難に満ちた長い道のりを語りました。

戸倉富美さんは 1925年樺太の小さな村に生まれました。敗戦を迎えたときは二十歳。看護婦の資格をもっていましたが、ソビエト政府による徴用で、魚の加工工場で過酷な労働を強いられます。そこで出会った朝鮮人の青年と結婚したために両親から縁を切られ、家族は富美さんを置いて北海道に引き揚げてしまいます。酒に酔うと始まる夫の暴力に耐え続け、夫亡き後も、娘の病死、息子が脳に障害を負うという不幸に次々と見舞われました。そのような中で７人の孫を育て、「樺太ではやれることは全部やった」と言う富美さんが遂に永住帰国を果たしたのは 84歳のとき。戦争がもたらしたものと今もなおもたらし続けているもの、その重さについて考えずにはいられない講話でした。

会場には若者の姿も

友末さんの講話の後、高校生の参加者から現在100歳となる富美さんの「生きる力の源は何なのか」という質問がありました。友末さんは、「富美さんは自分のために何かを求めたことはない。常に人に頼られ、決して断らない、逃げ出さない、という姿勢を貫いてきた。その結果、気がついたら 100歳になっており、今もなお孫たちから頼られている。本当にかっこいい女性」と答え、それを受けて「そのような生き方を目指したいと思います」という質問者の言葉に、会場からは大きな拍手が湧きました。

国、言葉の壁を越えて～樺太帰国者へのインタビュー～

知る集いの後半では当センター制作のインタビュー動画「サハリンから日本へ」を上映しました。樺太帰国者1世の石橋政美・笑里さん夫妻にそれぞれの子ども時代、出会いと結婚、帰国までの経緯と帰国後の生活について語ってもらいました。

石橋さん夫妻の場合、残留邦人本人である政美さんはスキー指導者としての仕事一筋で、日本への帰国については考えていなかったのに対し、ロシア人の笑里さんは、政美さんの母親代わりだった姉の倶子さんの影響で帰国を希望するようになりました。

帰国後、食生活など習慣の違いを乗り越え、言葉の面では不自由さを抱えながらも、積極的に交流を持とうとする姿に「元気をもらった」、「国とは何なのか、と考えさせられた」という感想が寄せられました。

上：インタビュー動画より　下：動画上映後、聴衆に挨拶する石橋夫妻

稚内・地域生活支援推進事業

冬の運動不足を解消！健康づくり教室

2月10日、健康づくり運動教室を開催しました。帰国者5名が参加し、血行を促すマッサージやストレッチを行った後、風船を使って体だけでなく脳にも刺激を与える運動に取り組みました。冬は家に閉じこもりがちですが、体を動かすよい機会となりました。

笑顔でつながるフォークダンス交流

3月26日、樺太帰国者6名が稚内市内で活動するフォークダンスサークルを訪ね、フォークダンスを体験しました。日本ではおなじみの「オクラホマミキサー」やロシア民謡、K-POPなど様々な曲に合わせて踊りました。テンポが速くてついていけないときも、みんなで笑い合い、楽しく交流することができました。

令和７年度日本語学習会発表会

互いの健闘をたたえ合うとき

3月19日、一年間の締めくくりとして日本語学習発表会が開催されました。昔話や日本の行事などをテーマにしたクラスごとの発表を事前に撮影し、上映するかたちで行いました。早口言葉に取り組んだクラスもあり、その上達ぶりには感嘆の声が上がっていました。互いの一年間の努力と健闘をたたえ合う充実したひとときとなりました。

ありがとう、そしてよろしくお願いします！

新しい年度を迎え、当センターにも出会いと別れが訪れました。これまでの支えと尽力に感謝しつつ、新たに加わった仲間とともに今年度も歩んでまいります。

安池真理子 福祉推進員

私は３月３１日をもって退職いたしました。

北海道中国帰国者支援・交流センターの開所以来、長い間センターの仕事に携わらせていただきました。１８年８か月、これまでのさまざまな出来事が思い出されます。普及啓発のイベントでは、多くの帰国者の皆さんにご協力をお願いし、インタビューのビデオ撮影やスピーチなどにもご参加いただきました。おかげさまで、どのイベントも充実したものになったと感じています。また、バスに乗って出かけた果物狩りや体験旅行、温泉なども、本当に楽しく、忘れられない思い出です。私は中国語もロシア語も話せませんが、それでも皆さんと気持ちを伝え合うことができたのは、皆さんが一生懸命日本語で話してくださったおかげです。大人になって外国語の勉強をするのは本当に大変ですよね。皆さんの努力には、いつも感心していました。本当にすごいです。

そして、ボランティアとしてご協力いただいている方々、各事業の講師をはじめ、支援に携わってくださっている方々、いつも本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。これからもセンター事業へのご協力をよろしくお願いいたします。

皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りしております。

５月・６月の予定

5 月 11 日	健康運動
5 月 18 日	健康運動（ふまねっと）
5 月 19 日	介護予防運動（手稲前田）
5 月 24 日	介護予防運動（もみじ台）
5 月 25 日	健康運動
6 月 8 日	健康運動
6 月 15 日	健康運動
6 月 21 日	介護予防運動（もみじ台）
6 月 22 日	健康運動（ふまねっと）
6 月 23 日	介護予防運動（手稲前田）
6 月 29 日	健康運動

なお、都合により写真・コメントの掲載はありませんが、昨年12月に退職した関口裕子福祉推進員にも心より感謝申しあげます。

新しい顔、懐かしい顔

小原規史 参事

皆さん、こんにちは。１月より中国センターで勤務しております小原規史です。私は主に、日本語教室や交流活動などのセンターの取り組みが順調に進むように、事業準備や様々な手続き、お金の支払いなど裏方の事務仕事にあたっています。毎日事務室でパソコンに向かって難しそうな顔をしていますけど、気軽にお声かけください。それでは、2026年も明るく笑顔で頑張っていきましょう。

菊地朋 主査

４月から異動により、13年ぶりにセンターに戻ってまいりました菊地です。また、センターでのお仕事を担当することが出来て、とても嬉しく思っております。皆さんのお力になれるように頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、今年度も皆さんに楽しんでいただくための交流事業等の企画を考えておりますので、ぜひご参加ください。

永沼しのぶ非常勤相談員

皆さん、こんにちは。中国語の相談員の永沼しのぶと申します。昨年10月からセンターで働いています。外勤で不在にしていることもありますが、皆さんとたくさん交流できると嬉しいです。至らない点もあると思いますが、日々皆さんから学び、皆さんのお役に立てるよう頑張ります。これからどうぞよろしくお願い致します。